

## 83

教育、研究を目的としたPACSの試み

徳田康孝、小島輝男、佐久間肇、玉川洋一、中島鉄夫、  
外山貴士、林哲成、石井靖、鳥塚莞爾（福井医大・放）

我々は臨床的に最低限容認できうる画質で、最も現実的である画像の保管、検索手段はマイクロフィルムシステムであると考え、昭和58年開院以来、発生する全ての画像をレポートと共にマイクロ化し、データベースを構築してきた。このデータベースは現在効率的に日常診療に使用され、強力な診断支援手段となっている。しかしながら、教育、研究に放射線科が必要とする画像は全画像の高々数%であり、我々は、これを対象としたPACS構築を提唱している。核医学画像、CT、MR等のデジタル画像とワークステーションとの結合、教育、診療に必要な画像選択のシステム、光ディスクライブラリーへの入力、および、これを使用した毎朝のカンファレンス等、当科におけるPACSの実際を紹介し、我々の考えを述べる。